

## 第 62 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)	リピトール 他	中外製薬	(株)	アバステチン
第一三共	(株)	ネキシウム	エーザイ	(株)	パリエット
興和創薬	(株)	グラナテック	大塚製薬	(株)	
大塚製薬工場	(株)	ビーフリード	田辺三菱製薬	(株)	タリオン
武田薬品工業	(株)		(株) ツムラ		ツムラ六君子湯

(ABC 順)

## 編集委員会

編集委員長：杉 山 篤

編集委員：石 井 良 和

島 田 英 昭

津 熊 久 幸

伊 豫 田 明 三 上 哲 夫

周 郷 延 雄 高 橋 寛

瓜 田 純 久 (ABC 順)

## 編集後記

いよいよ Toho Journal of Medicine が英文誌として本格的に登場いたしました。初回からいきなり 3 編の英文原著論文が掲載されるという充実? の内容です。「どうせ IF もないし…」 「PubMed でもヒットしないし…」 などと斜に構えている皆様、2020 年の東京オリンピックの頃までには、日本の大学発英文雑誌としてトップをめざすレベルも夢ではありません。学位論文をどこに投稿しようか迷っている諸君！50 年後でも 100 年後でもしっかりと記録が残っているジャーナルに掲載されたほうが価値あることなのではないでしょうか。毎年世界中で発刊される怪しげなオンラインジャーナルの栄枯盛衰は激しく、質の高い論文を継続的に掲載できるような体制がないとあっという間に淘汰されてしまいます。歴史のある学会を基盤としているジャーナルは永続性があり、少数のカリスマによって運営されていたジャーナルは、そのカリスマが Editor を辞めた瞬間に消滅するようなこともありえます。

さて、われらの愛すべき Toho Journal of Medicine はいかがでしょうか。「永続性」「コンテンツの新規性」「日々の診療に役立つか?」「構成要員である東邦大学教職員にとって有用な情報を発信しているか?」などなど要件を満たしており結構面白いのではないのでしょうか。英文原著論文と和文論文や和文報告などの絶妙なバランスは、読めば読むほど味わい深い雑誌となっているように思われます。さて、今後めざすべきステップとしては、原著論文を積極

的に引用することであります。現時点で PubMed に掲載されている雑誌に掲載予定の論文ではぜひとも Toho Journal of Medicine の論文を積極的に引用してください。そして何よりも引用したくなるような面白い論文の投稿を歓迎いたします。編集後記を書くのが楽しくてワクワクするような、そんなジャーナルに皆で一緒に育ててまいりましょう！

(島田英昭)

## 東邦医学会雑誌 第 62 巻 第 1 号

平成 27 年 3 月 1 日発行

編集兼 杉 山 篤  
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号  
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎